

事務事業名	真岡西分館図書室運営事業			担当	教育委員会 生涯学習課 真岡西分館		
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり			電話番号	0285 - 84 - 6781	
施策名	1	生涯学習の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業		
基本事業名				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	社会教育法第22条、真岡市公民館分館図書室利用規則				<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成6年度～）		
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4社会教育費	3. 公民館費	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口業務：貸出、返却、レファレンスサービス（検索）、返却された資料の配架 ・開室日数：216日、開室時間（午前9時～午後5時） ・休室日毎週日曜日、月曜日、祝日、年末年始（12月28日～1月4日）、特別整理期間（年1回、10日以内・資料数（平成24年4月1日現在）：図書21,608冊、新聞2紙 ・貸出数（図書10,508冊、視聴覚資料133点、雑誌75冊） ・臨時職員1人 						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 23年度実績 利用者への資料貸出・利用者からの資料返却及び書架への戻し・利用者へのレファレンスサービス・未返却資料の督促 平成23年3月の震災で使用不能となった傾斜複式書架2連を1式購入した。 24年度計画 23年度と同様に実施する。	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
	ア 開室日数	日		243	240	216	240		
	イ 来室者数	人		12,591	13,346	13,333	13,500		
	ウ 貸出冊数	冊		9,948	10,460	10,508	10,500		
エ									
オ									
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市民	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
	ア 市民の数	人		82,997	82,584	82,126	81,511		
	イ								
	ウ								
エ									
オ									
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） できるだけ多くの市民に図書室資料を利用してもらう。市民が気持ちよく図書室サービスを利用できるようにする。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
	ア 利用登録者数（当該年度）	人		49	47	45	45		
	イ 利用登録者数（累計）	人		768	815	860	905		
	ウ								
エ									
オ									
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 市民の教養と文化の向上を図る。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移								
	名称	単位	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(見込)		
	ア 市民一人当たり貸出冊数	冊		0.12	0.13	0.13	0.13		
	イ 利用登録者一人当たり貸出冊数	冊		13.0	12.8	12.2	11.6		
	ウ								
エ									
オ									
(2) 総事業費の推移									
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	0	0	0	0	0
	事業費計(A)			千円	0	1,504	1,340	1,941	0
	人件費	正規職員従事人数	人	0	1	1	1	0	
		延べ業務時間	時間	0	100	100	100	0	
		人件費計(B)	千円	0	406	427	424	0	
		トータルコスト(A)+(B)			千円	0	1,910	1,767	2,365

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	平成6年に真岡西分館開館と同時に真岡市立図書館の補完施設として、真岡西部地区市民の教養と文化の向上に寄与するための資料を提供する場として開室した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	平成21年度から真岡市立図書館に指定管理者制度が導入された。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 社会教育法第22条の規定に基づく図書室奉仕であり、市民の教養と生活文化の向上、ひいては心豊かな人間性あふれた人づくりに結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 社会教育法に規定されており、市民の教養と文化の向上を図ることは責務である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 利用対象は全市民であり適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 利用希望する市民には、全員にサービスの提供をしている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 市民に必要な図書館資料を提供できなくなることにより、知識欲や生活文化の向上に支障をきたす。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 貸出・返却業務等に必要の臨時職員の賃金であり削減できない。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 最小の人件費で対応しているので削減できない。
公平性 評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 社会教育法第22条の規定に基づき、図書室をひろく市民に開放しているので、公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							